

公印省略

福商部本第30号
令和8年2月6日

関係高等学校長殿

福岡県高等学校商業教育研究部会長
(福岡県立小倉商業高等学校長)

令和8年度海外研修事業について（依頼）
時下ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。
平素から本会の運営について格別な御高配を賜り感謝いたしております。
さて、標記の件につきまして、公益財団法人全国商業高等学校協会より応募依頼を受け取りました。
つきましては、令和8年度海外研修事業要項を参照のうえ、関係書類の提出をお願いいたします。

記

- 1 提出書類 (1) 令和8年度海外研修事業 志望理由書
(2) 令和8年度海外研修事業 派遣候補者推薦書

提出書類は、公益財団法人全国商業高等学校協会ホームページから
ダウンロードをお願いします。
(<https://zensho.or.jp/>) → 「書類ダウンロード」 → 「発信文書」
→ 「令和8年度海外研修事業（生徒）」
(パスワード：kaigair8)

- 2 提出先 〒802-0801
北九州市小倉南区富士見三丁目5番1号
福岡県立小倉商業高等学校内
福岡県高等学校商業教育研究部会 本部事務局
TEL 093-922-9876

- 3 提出期限 **令和8年3月6日（金）必着**
本部事務局が福岡県の分をまとめて全商協会へ郵送します。



令和8年2月2日

全国商業高等学校長協会
都道府県連絡理事（校長）様

全国商業高等学校長協会
公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長 小川 孝
(公印省略)

令和8年度海外研修事業について（依頼）

本協会主催の標記海外研修事業につきまして、下記要項により実施いたします。
つきましては、ご多用中恐縮ではございますが、貴管下会員校にご連絡のほどよろしく
お願い申し上げます。
貴管下内の応募締切日につきましては、都道府県連絡理事の裁量で決定していただき、
ご周知いただきますよう、よろしくお願ひいたします。
今後とも本協会の諸事業にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

記

1 送付物

- (1) 令和8年度海外研修事業 要項
- (2) 令和8年度海外研修事業日程（ベストワールド株式会社作成）
- (3) 令和8年度海外研修事業 応募生徒に関する申請書
- (4) 令和8年度海外研修事業 派遣候補者 推薦書
- (5) 令和8年度海外研修事業 志望理由書
- (6) 全国商業高等学校長協会・公益財団法人全国商業高等学校協会主催
海外研修事業における個人情報及び肖像権に係わる取り扱いについて

2 書類ダウンロード

関係書類は以下により、ダウンロードができますのでご活用ください。

公益財団法人全国商業高等学校協会ホームページ → 書類ダウンロード → 発信文書
→令和8年度海外研修事業（生徒）

送付先・連絡先

〒160-0015 東京都新宿区大京町26番地
TEL: 03-3357-7911
公益財団法人全国商業高等学校協会
担当: 今田和佳・山崎 宏

令和8年度海外研修事業要項

- 1 目的 商業高校の学びに関連した市場調査等のフィールドワーク、現地での見学や体験をおし、視野を広げ、異文化理解を深め、国際感覚を身に付けるとともに、生徒が本研修の成果をビジネスの振興による地域の発展に結び付ける機会とする。
全国の商業教育のなお一層の振興・発展を図るため、将来、各都道府県の商業教育のリーダーとして期待できる教諭を育成する。
- 2 対象者 (1)商業科目を学ぶ令和8年度高校2年生16名+教諭3名+校長(団長) 合計20名
(2)事前・事後研修も含め全研修に参加できる者
※教諭は各ブロックより3年に一度1名参加する。
- 3 実施時期 (1)海外研修
令和8年8月17日(月)から8月22日(土)
※8月17日(月)は成田近郊の宿泊ホテルにて事前研修。
(2)事前・事後研修
オンライン研修を3回実施。内容については、派遣者決定後に連絡する。
第1回 令和8年7月4日(土)午前9時から午前11時
第2回 令和8年7月31日(金)午前9時30分から午前11時30分
第3回 令和8年10月3日(土)午前9時から午前11時
- 4 研修国 マレーシア
- 5 内容 学校交流、JICA(国際協力機構)・企業訪問、現地大学生とともに主体的に考えたプランで市場調査等
- 6 費用 以下全商協会負担
(1)自宅から成田空港の往復費用
(2)航空運賃:エコノミークラス
(3)燃油特別付加運賃及び各空港税
(4)バス料金:各都市における市内観察及び観光のバス費用
(5)宿泊料金:ホテル宿泊費用(1室2名、バス又はシャワー付き)
(6)食事:全食事付き(機内食を含む)※グループ行動時は昼食代を支給
(7)研修費用:現地での研修プログラムに関する手配、諸費用
(8)通訳・ガイド費用:学校、市内観察及び現地企業訪問時における通訳・ガイド費用
(9)添乗員費用:全行程1名同行
(10)8月17日成田前泊宿泊費、会議室、夕食、成田空港への送迎バス費用
(11)団体旅行保険
- 7 募集時期 2月上旬

8 応募締切 令和8年3月13日（金）全商協会必着

※生徒は、都道府県連絡理事が指定した日。都道府県連絡理事校必着

9 選考 派遣する生徒を4月中旬に選考

※参加を希望する生徒は、都道府県連絡理事を経て全商協会あてに応募し、選考は全商協会で行う。

10 派遣生徒の応募方法

(1) 希望する生徒は、次の提出物を都道府県連絡理事が指定した日までに都道府県の取りまとめ校（都道府県連絡理事校）に提出する。

【提出物】

- ①令和8年度海外研修事業 志望理由書
- ②令和8年度海外研修事業 派遣候補者推薦書

(2) 都道府県連絡理事は、次の提出物を応募締切日までに全商協会に郵送で提出する。

【提出物】

- ①令和8年度海外研修事業 応募生徒に関する申請書

※①については応募生徒がいない場合でも、メールでご送付ください。

メール送付先: konta@zensho.or.jp

- ②応募生徒から提出のあった上記(1)提出物①、②

11 派遣生徒の決定（選考方法）

(1) 志望動機や検定取得状況等をもとに、特定の都道府県、学校に偏らないように選考し、理事会の審議を経て、理事長が決定する。

(2) 派遣者決定後、全商協会から連絡理事、在籍校長、生徒に通知する。

(3) 派遣者決定後の辞退は原則として認めない。

12 派遣教諭の決定

令和8年度の派遣教諭は関東ブロック、近畿ブロック及び九州ブロックの各ブロック代表常務理事からの推薦者各1名とする。

ブロックのローテーションは次のとおりとする。

令和8年度	関東ブロック	近畿ブロック	九州ブロック
令和9年度	北海道ブロック	北信越ブロック	中国ブロック
令和10年度	東北ブロック	東海ブロック	四国ブロック

13 個人情報の取扱いについて

研修参加に際して提供される個人情報は本研修に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。(詳しくは別紙「全国商業高等学校長協会・公益財団法人全国商業高等学校協会主催海外研修事業における個人情報及び肖像権に関する取り扱いについて」をご参照ください。)

14 その他

生徒応募者総数が最少実施人数10名に満たない場合は、実施を見送る。



※イメージ画像

令和8年度 海外研修事業

=多文化ビジネスをマレーシアで学ぶ=

期 間：2026年8月17日(月)～22日(土) 6日間



主 催：全国商業高等学校長協会
旅行実施：ベストワールド株式会社

東南アジアの中心に位置する「多民族・多文化国家」

マレーシアは、アジアの中でも著しい経済成長を続ける国際ビジネスの拠点です。首都クアラルンプールを中心に世界中の企業が進出し、街では英語が広く使われ、中国系・マレー系・インド系など多様な文化を持つ人々が共に働いています。そこでは異なる価値観や習慣が交わりながら経済活動が行われており、「多文化の中でビジネスを進める力」が自然に求められる環境が広がっています。本研修は観光旅行ではなく、商業高校で学ぶビジネス、流通、観光、情報、会計といった専門分野の知識が、海外の社会でどのように活かされているのかを実際の現場で学ぶ体験型の学習です。企業や商業施設の見学、国際都市のビジネス環境の視察、英語でのコミュニケーション体験を通して、教科書で学んでいる内容が世界とつながっていることを実感できます。日本とは異なる市場の仕組みや消費の動き、多民族社会ならではの商習慣に触れることは、将来の進路選択や職業観を考える上で大きな刺激となるでしょう。国際社会の中で求められる視野の広さと実践的な力を育てる第一歩として、このマレーシア研修は皆さんの可能性を大きく広げる貴重な機会となるはずです。

是非、この機会に関係者の皆様には奮ってご応募頂けます様、よろしくお願ひ申し上げます。



【マレーシアでの研修のポイント】

①海外ビジネスの現場を体感

アジアの成長国マレーシアで、世界とつながる企業活動や商業施設の仕組みを視察。日本との違いや国際市場の動きを肌で学びます。

②流通・販売のグローバルな仕組みを学ぶ

大型ショッピングモールや現地店舗の見学を通して、商品の流れ、販売方法、消費者ニーズの違いを実地で理解します。

③多文化社会の中でのビジネス理解

多民族国家ならではの商習慣や価値観の違いに触れ、国際社会で働くために必要な視野の広さを身につけます。

④英語での実践コミュニケーション

現地の人との交流や施設訪問時の英語使用体験により、「教科としての英語」から「使える英語」への意識を育てます。

⑤商業科目と現地社会の結びつき

学校で学ぶ「ビジネス基礎」「情報処理」「会計」などが、実社会でどのように活かされているかを理解します。

⑥国際感覚と主体性の育成

海外という環境で行動する経験が、自主性・協調性・課題発見力を高め、将来の進学・就職につながる力を育てます。

⑦将来を考えるきっかけづくり

海外のビジネスや社会を知ることで、自分の進路や「働くこと」への視野が広がります。



※掲載された写真はすべてイメージです

2025年 海外研修事業(マレーシア・クアラルンプール)日程

月 日	曜	発着地	時 刻	交通機関	概 要	食
2025年 8月18日	月	成田空港ホテル	13:20	各 自	成田空港近郊のホテルに集合。 事前研修を行います。 【成田空港近郊ホテル泊】	夕
8月19日	火	東京（成田）発 クアラルンプール着	11:20 18:25	JL-723	成田空港へ移動。 空路直行便にてクアラルンプールへ。 着後、専用車にてホテルへ。 【クアラルンプール泊】	機 夕
8月20日	水	クアラルンプール滞在			<p>午前：クアラルンプールでの学校交流 ウェルカムセレモニー、両国の教員代表から挨拶、両国の生徒代表から挨拶、記念品交換、マレーシア生徒からパフォーマンス等々</p> <p>午後：JICA（国際協力機構）マレーシア事務所訪問 マレーシアは、2019年に10年間の国家開発計画「ビジョン2030」を発表し、2030年までにマレーシアを「所得グループ、民族、地域、サプライチェーンを越えて、公正で公平な分配と共に持続可能な成長を達成する国」にすることを目指として掲げています。JICAは、この目標達成に向け、1)先進国入りに向けた均衡のとれた発展の支援、2)東アジア地域共通課題への対応、3)東アジア地域を越えた日・マレーシア開発パートナーシップの強化に重点を置いた協力を実施しています。</p>	朝 昼 夕
8月21日	木	クアラルンプール滞在			<p>午前：サンウェイ・カレッジにて講義を受講 会計コースに力を入れている学校となります。2019年OPENの新しい学校です。各学生の独自の学術パスに合わせて調整された6つのプレ ユニバーシティ プログラム(大学準備プログラム)を提供しています。</p> <p>昼：Ken Chan Curry を運営する日本人創業者である吉田氏からハラルについての講話</p> <p>午後：日本人起業家からの講話 マレーシアで企業する日本人は多数存在します。日本に比べてマレーシアは女性でも仕事で活躍しやすい環境があり、マレーシアは民族国家なので、多種多様な人種で成り立っており、その分格差を感じることがほとんどないことから、外国人を受け入れる器が既に備わっています。</p> <p>3大民族を学ぶ マレーシアイスラム美術館、バトウ洞窟、天后宮を訪問</p>	朝 昼 夕
8月22日	金				<p>午前：現地大学生とのフィールドワーク(B&Sプログラム) (日本の生徒5~6名で1グループ) ※グループ毎に行動しますので昼は基本それぞれ自由食となります。現地で昼食代をお渡しいたします。</p> <p>※マレーシアの学生の価値観を知り、より深い位置で文化を交換 ○現地大学生とともに観光地、街歩き、市場調査を行う体験プログラムです。スケジュールを自分達で企画するところからプログラムは開始です。公共機関を利用して街歩きをする中で海外生活への関心が高まり、当地の生活物価を体験することができます。</p> <p>夕刻：プロトラジャヤ観光(ピンクモスク、首相官邸、人口湖)</p>	朝 昼 夕
		クアラルンプール発	22:50	JL-724	空港近くにて夕食後、空港へ移動。 専用車にて空港へ移動。 空路、帰国の途に。	
8月23日	土	東京（成田）着	07:00		帰国手続き後、解散。	機

※訪問先については予定として記載おります。今後、変更となる場合があります。

※航空機便名、発着時間については変更となる場合があります。

マレーシアでなぜSDGsを学ぶのか、「学び」から得て行動する

「インプット」「プロセス」「アウトプット」の3つのステップをベースとして“見て終わり”にならないプログラム。

Withコロナ時代における教育のマインドセット
「答え」がない社会に必要な能力こそ“主体性”



社会で問われる理想的なスキル



Step 1: インプット |
現状を知り、課題を発見する

観光・体験・交流から、マレーシアの現状を知り、SDGsの観点から今起こっている、そして将来おこるだろう課題を見つけてみましょう。様々な領域の人、知識や経験に触れ、視野を広げる事がStep1で最も重要なポイントです。



Step 2: プロセス |
自分ごと化で考える

課題を発見したら、自分の身の回りにおきかえ、自分たちが暮らす街で同じような課題がないかをリサーチしてみましょう。地元の人たちにヒアリングをしたり市場調査を行う事も旅行中に出来るリサーチです。



Step 3: アウトプット |
自分に何ができるだろう
(スクール・アクションプラン)

発見した視点やアイディアを言語化することで、体験を自分ごと化し、今後何を行動すべきかを明確にし継続的な行動に挑戦する。



※掲載された写真はすべてイメージです

B & S (ブラザー&シスター) プログラム

マレーシアの学生の価値観を知り、より深い位置で文化を交換できる

現地大学生が兄弟姉妹役 (Brothers&Sisters) となり、一緒に観光地巡り・街歩き、市場散策などを行う体験型プログラムです。出発地に沿ったスケジュールを自分たちで企画する所からプログラムは開始です。公共機関を利用して街歩きをする中で海外生活への関心が高まり、当地の生活物語を体験することができます。身近な未来像に交流することで自分の夢を考える「未来への気づき」になります。



マッチング



B&S開始、画像USM出典



ランチタイム



思い出の1枚

相手を知ろうという気持ちで「ハラル」を学ぶ

ホテルシェフがおしえる“食から知るハラル”

イスラム教徒(ムスリム)の人口は世界の25%を超え、その半数以上はアジアに居住しています。アラビア語の「ハラル」とはイスラムの教えで“許されている”という意味からきており、神の教えに従って生きるムスリムの生活全般(食品、化粧品、約束、仕事など)を指します。イスラム法に則って生産・提供された商品かは「ハラル認証」マークで確認ができ、多民族・多宗教また経済発展により輸入品や加工品が増える中で国が確認し、安全なハラル商品を購入できる制度が整っています。



コラスホテル



レストラン



マレーシアのハラル認証マーク ハラル認証を受けたキッチン



なぜ首都機能をクアラルンプールからプトラジャヤへ移したか

住み続けられる街づくりを目指して

首都クアラルンプールでは人口増加、交通渋滞、政府機関においては市内に点在しているが故の運営非効率や家賃の高騰等さまざまな問題を抱えていました。そこで首都は変えずに行政機関のみ移転する案が可決、1999年新たに行政首都「プトラジャヤ」が誕生し、そこで働く人たちの移住を推進しました。現在約10万人の人口を移住させたプトラジャヤ計画の方法と行政都市だけにとどまらず観光地としても発展



美しいピングモスク



首相官邸



クアラルンプールの交通渋滞



CO2排出量削減への取り組み

※掲載された写真はすべてイメージです